

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年8月28日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■かき 柿畑農塾特別研修会の開催

8月26日に、JAいび川主催の柿畑農塾特別研修会が開催され、塾生8名が出席した。

大野町内3カ所の優良柿園を視察し、普段見られない柿園の様子を見ながら園主から直接話を聞く機会となった。農業普及課からは、各園の栽培や経営における特徴等について説明を行った。塾生から活発な質問があり、経営の参考となった様子であった。

農業普及課では、引き続き柿産地の担い手育成支援を行っていく。



【現地巡回の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■GAP これからの揖斐の農業を考える研修会

8月28日に、農林事務所の主催による標記の研修会を開催し、生産者や関係機関約70名が参加した。「ぎふクリーン農業表示制度」が今年度で廃止される。そこで、この理念を引き継ぐ「ぎふ清流GAP評価制度」の啓蒙のため、県農産園芸課及びぎふ清流GAP推進センターからの制度説明とともに、管内GAP実践者から事例が報告された。

今後の揖斐の農業を進める制度として、生産者に理解してもらう機会となった。



【研修会の様子】

■かき 袋掛け富有柿栽培研修会の開催

7月30日に、大野町かき振興会主催の袋掛け富有柿栽培研修会が開催され、約20名の生産者が参加した。富有柿に袋掛けし、12月中旬に収穫することで、通常よりも樹上で長く生育し、高糖度で着色良好な柿に仕上がる。その中でも県で定めた品質基準（大きさ、着色の良さ、高糖度）を満たした柿を「果宝柿」として、それに準じて大野町独自の品質基準を満たした柿は「紅富有」として出荷される。

研修会では、技術部員による袋掛けの実演が行われた。また農業普及課からは、柿の生育状況や袋掛けの注意点について情報提供を行った。袋掛け作業は8月下旬頃より開始される。



【研修会の様子】

■ フランネルフラワー 天敵利用防除の試験実施

8月25日に、池田町の花き生産者ハウスにおいて、天敵を利用した防除の試験が開始された。いちごなどでは、天敵を活用した防除が定着してきているが、花きでは実用段階には至っていない。

県では昨年から、切りバラ栽培での天敵の活用が始められており、今年度からフランネルフラワーの鉢花・切花においての実証試験をすることとなった。今回はハダニの天敵であるスパイデックス、スワルスキー等の放飼を実施した。

農業普及課では、天敵実証に係る調査等を行い、実用化に向けた課題解決に向けた支援を行っていく。



【天敵防除検討の様子】

■ 茶 青空教室の開催

8月10日に、(農)桂茶生産組合が取り組むA S I A G A Pの規定に基づく青空教室が4年ぶりに開催され、19人の組合員が出席した。農業普及課は講師として出席し、秋冬茶に向けた病虫害防除、茶園管理について、資料に基づき講義を行った。出席者から積極的な質疑もあり、有意義な研修となった。

今後もG A Pへの取り組みとともに、産地力を維持継続できるよう支援する。



【青空教室の様子】

■ いちご いちご組合通常総会及び反省会の開催

令和4年産いちごの生産が終了し、揖斐郡の3組合では通常総会が開催された。次年産に向けて安全、安心で高品質ないちご生産や、生産者同士の交流による技術研鑽等の基本方針が提案され、承認された。

総会后に栽培研修が行われ、農業普及課からは育苗中の栽培管理のポイントや子苗の肥培管理、高温対策等について情報提供を行った。今後も部会活動の支援を行い、揖斐地域のいちご生産振興を図っていく。



【総会の様子】

■ 種子の安定生産 水稻種子のほ場審査を実施

8月22日、31日に大野町の水稲(品種:ハツシモ岐阜S L)種子ほ場で、出穂期におけるほ場審査を生産者、J A等関係者と協力して行った。生育は概ね順調で、今後の雑草管理やカメムシ対策について審査後に生産者と確認した。次回は、9月末頃に成熟期のほ場審査を行い、さらに収穫後、生産物審査(発芽試験)を経て、来年作の種子として利用される予定である。

大野町採種圃生産組合では、水稻種子は7.8haで生産されており、農業普及課では引き続き安定生産に向けた栽培管理を支援していく。



【ほ場審査の様子】